

学校概要

創立 30 周年	学校長 田中さくら	副校長 菊池幸博	学期 2 学期制	児童・生徒数 328 人
学級数 一般級: 12 個別支援級: 2		主な関係校: 釜利谷中学校		

学校教育目標

合い言葉「友達を思いやり、友達とひびき合う心」  
 知・学び合う楽しさを知り、進んで課題解決に取り組む子  
 徳・人を思いやり、進んで行動する子  
 体・生命(いのち)を大切に、健やかな体をつくる子  
 公・進んでまちとかかわり、地域とともに生きる子  
 開・人とふれあい、視野を広げていく子

学校の特徴

□平成元年に創立の新しい学校。学区は開校とほぼ同時期に開発された「パークタウン」、「ニューライフ」と鎌倉時代に鎌倉と金沢文庫を繋ぐ街道があった「白山道」からなる。歴史と新しさが共存し、学習の材が豊富である。学校運営協議会を核とした地域・保護者のボランティアが多く、いろいろな場面で学校に力を貸していただいている。地域や家庭の教育力が高い落ち着いた学区である。  
 □創立30周年を迎え、周年行事に向けて、学校運営協議委員、PTA保護者、教職員が一丸となって昨年度から準備を進めておりその協力体制は、教職員の異動があっても子どもたちのために継続されている。 □  
 □市学力学習状況調査から、基礎的・基本的な学力と思考力、活用力に課題がある学年が多い。  
 □挨拶に対する課題が解消されてきた。積極的に挨拶をしている児童が90%を超える。

学校経営中期取組目標

- 夢や希望や目標をもち、それに向かって努力を重ね、認め合い、語り合える学校にします。
- ・基礎・基本の定着を図りながら、児童が友達とのコミュニケーションを大切に、学習の楽しさを実感し、主体的に問題解決を進めていくような学習展開を図ります。
- ・児童一人ひとりが自己肯定感・有用感をもち、楽しく学校生活を送りながら、夢や希望を語り合える学校にします。
- ・学校中に挨拶や笑顔や歓声があふれ、豊かな心や、健やかな体を育成する学校にします。
- ・家庭や地域の教育力を学校に取り込むことを通して、進んでまちとかかわり地域とともに生きる児童を育てます。

小中一貫教育の取組

釜利谷中	ブロック	釜利谷中学校、釜利谷小学校、高舟台小学校
9年間で育てる子ども像	集団の中でお互い認め合い高め合おうとする子ども	
自校の具体的取組	「友達を思いやり、友達とひびき合う心」を合い言葉に、 ・重点研(体育)の中で主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成～をテーマに定め、授業を通しての研究 ・開校以来継続している、縦割り(異学年グループ)活動を生かした指導 ・年間を通した挨拶推進のための「にれのきあいさつ運動」週間の取組	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎基本の「知識・技能」の定着を図るとともに、問題解決的な学習を進め、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」を育てる。	全ての教科において、言語活動を通して伝え合う力の育成を目指す。 ・算数は、習熟度別や少人数指導を行い、個に応じた指導ができるように努める。 ・自ら学習課題を設定し、学校司書と連携しながら問題解決を図るような学習を展開する。 ・ニレの木タイムで基礎基本の定着・充実を図る
豊かな心	挨拶を進んで行い、同学年・異学年の友達と進んで関わり、自分や友だちを大切にできる気持ちを育てる。	・音楽朝会を通して、情操教育を充実させる。 ・あいさつ運動、縦割り活動を通して人との関わり方を学び、挨拶やあたたかい言葉遣いなど心の教育を行う。 ・道徳では、各学級で年1回の授業公開を行うが、教育活動全体を通して、人権感覚を育て
健やかな体	体育学習や様々な運動体験を通して運動の楽しさを実感し、自ら進んで運動しようとする子供を育てる。体を動かすことの習慣化を図り、体力の向上を目指す。	「縄跳び集会」では、クラスで記録を伸ばす取組をする。 ・「ジョギング週間」ではカードを作成し、取り組む。 ・通年で「姿勢体操」に全校で取り組む。姿勢体操第2の活用で体幹を鍛える。 ・休み時間を利用した体力作り(ドッジボール大会・体育館パスポート等)を行う。
児童指導	児童の変容や集団の様子を細かに見取りいじめの早期発見、迅速な対応に努める。児童支援専任を核として情報を共有し、全職員でチームとして指導にあたる。	「釜南スタンダード」を全職員が共通理解し、児童指導の徹底と保護者へ発信を行う。 ・職員会議等で情報交換等を行うとともに児童支援専任のもと組織的に適切な対応を行う。 ・事案に対しては複数の職員で対応できるようにする。ケース会議の適宜開催と迅速な対応。 ・いじめ防止のため、アンケート(2回/年)先生と話そう月間、YPアセスメントを実施する。
特別支援教育	「支援を必要としているのは全ての子ども」という意識で、学習環境の整備や個々の児童の特性を理解し共通な指導支援をするために情報を共有するように努める。	・配慮が必要な児童の個別の指導計画・教育支援計画を作成し、職員で共通の理解をする ・とともに、関係機関とも連携を図りながら、個々の児童に応じた指導・支援を行う。 ・校内支援体制(特別支援教育部、学習サポート等)の構築を図る。 ・インクルーシブ教育もためユニバーサルデザインの視点に立った学習環境作りに努める。
地域連携・学校運営協議会	学校運営協議会の活動を家庭・地域に周知し、理解と協力を得るようにする。地域コーディネーターを核に地域・家庭の教育力を学校に取り込むようにする。	・学校運営協議会で学校評価等、保護者・地域・学校が一体となる学校運営体制を整える。 ・学校説明会や学校便り、HP等を教育活動理解の手立てとする。 ・校内レンジャー、見守り隊、ウルムスサポート、琴・米作りの地域ボランティアの取組を充実継続していく。
安全管理	職員一人ひとりが緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるようにする。児童が安全に安心して過ごせる環境づくりに努める。	・地震・火災・不審者侵入等、避難訓練や引き取り訓練を計画的に行う。 ・食物アレルギー児の対応を年度初めに全職員で研修確認する。(校外学習のおやつについての指導を徹底する。) ・施設設備や教室(1回/月)、通学路(適宜)等の安全点検を行う。
いじめへの対応	いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けて組織的に取り組む。児童一人ひとりの特性や心理状態の理解に努める。	・早期発見のため、アンケート(2回/年)、先生と話そう月間、YPアセスメントを実施する。 ・担任→主任→専任→管理職への連絡システム・体制を再確認し組織全体で対応する。 ・目の前の児童を大切にしている意識を共有し、児童の特性に応じた支援を行うための、人権教育、特別支援教育に関する研修を行う。
人材育成・組織運営	メンターチームを充実させメンバーのニーズに応じた自主的な研修を中心に進めるようにする。研修部は職員全体に必要な校内研修を企画運営する。	・メンターチームを組織し、授業実践や実技研修等の具体的な活動を毎月実施する。 ・人材育成のための主幹教諭とメンターチームの関わり方を工夫する。 ・不祥事防止、コンプライアンス、児童指導、危機管理対応能力等の校内研修を計画的に実施する。

